

精神障害者の人権

「精神障害者の人権」の趣旨

- 人権についての理解
- 障害者の人権
- 入院者訪問支援における人権

人権について知ること

- ▶ 人権や憲法を知ろうとする人たち
今まさに自分の人権が脅かされていて、それに抵抗しようとしている人たちです。
- ▶ 人権が守られている人たち
すでに人権が守られているから、憲法や人権を勉強する必要性を感じません。
- ▶ 私たちは、人権が脅かされている人たちへの想像力を獲得し、ともに行動していくためにも、まずは人権を学ばなければなりません。

「人権」概念の誕生

- ▶ 国連において「世界人権宣言」が採択された。
- ▶ 人権には、いろいろな考え方がある。
- ▶ 英米などの自由主義国家では、人が公権力等から不当な介入を受けず、自由を制限されないことが人権(自由権)であると考えた。
- ▶ ロシアなどの社会主義国家は、貧富の格差などが生じないように国が保障していくことが人権(社会権)であると考えた。
- ▶ 領域も、人種差別、性差別、集団殺害、拷問等、子ども、移民労働者、そして障害者など多岐に及ぶものである。

障害者権利条約について

- そもそも条約とは何か：国と国の約束のこと。



障害者権利条約の交渉過程

交渉過程：加盟国政府だけではなく、障害当事者も参画した。



障害者権利条約の概要

- 2006年 障害者権利条約が国連総会で採択された。
- 2014年 日本政府が批准した。
- 目的
全ての障害者によるあらゆる人権及び基本的自由の完全かつ平等な享有を促進し、保護し、及び確保すること並びに障害者の固有の尊厳の尊重を促進すること
- 障害者権利条約は、障害者に新たな権利を与えるものではない。
- 障害者が享受できていない権利を他の者と平等にすることを目指したものである。

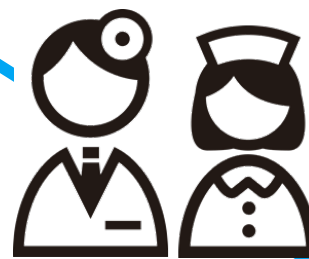
障害の社会モデル

- 障害者権利条約の理念
障害者権利条約は、社会モデルをベースにしている。
- 社会モデル(人権モデル)とは
社会モデルとは、障害は個人ではなく社会にあるという考え方のことである。
- 社会モデルは、障害(社会的障壁)がどのようにして構築され、いかにして解消すべきかを考える上で重要な枠組みとなる。

排除する地域社会



精神障害者とかかわるのが面倒だから病院にお任せしてしまう。



医療従事者



医療機関

分離の過程

目の前の困りごとが
なくなった

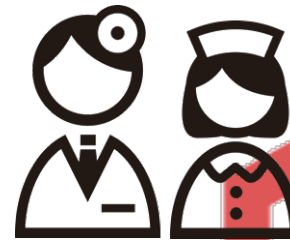
円滑

安寧

地域社会

病院に入院させることで精神障害者がほとんどいない地域社会ができあがる。

医療従事者



精神障害者



医療機関

統合と社会的障壁



精神障害者がほとんどいない地域にはバリアがいっぱい。
地域移行しても困難が立ちはだかる。

例：賃貸物件、所得、家族など。

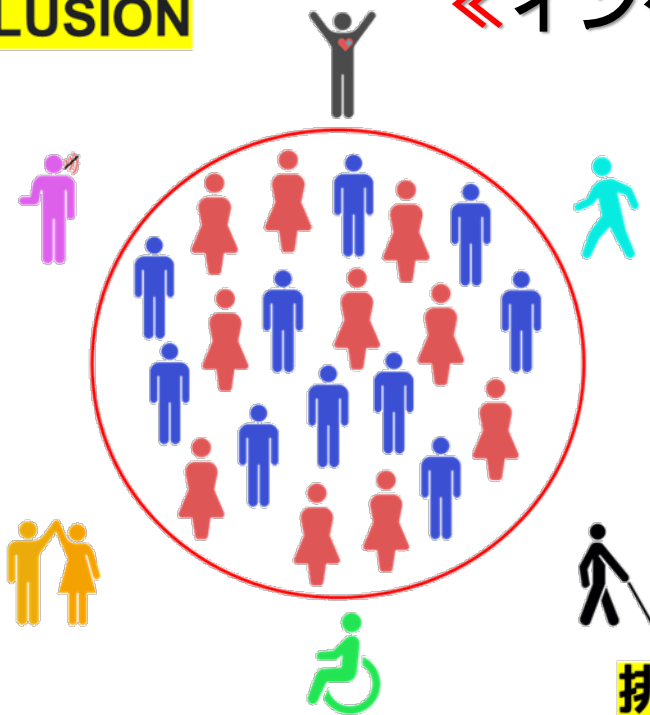


医療機関

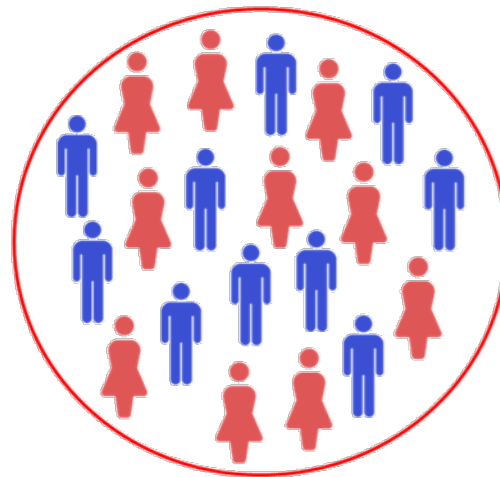
EXCLUSION

《インクルージョン》

SEGREGATION



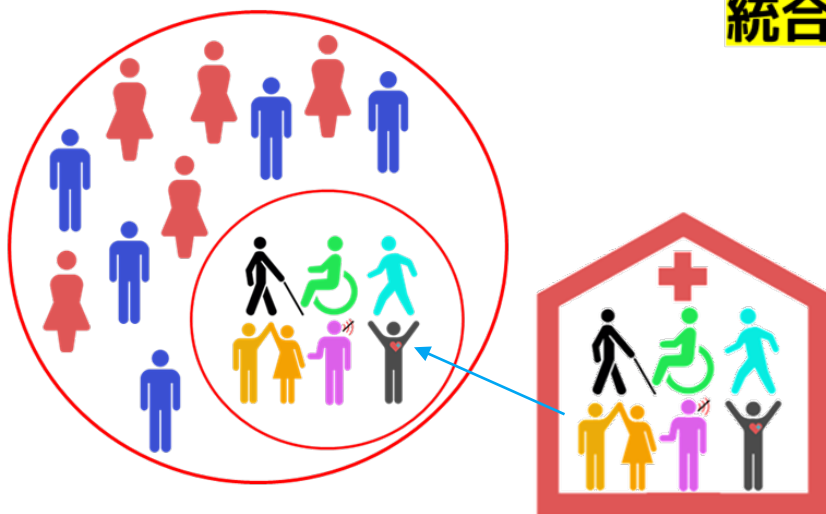
排除



分離

統合

包摂 インクルーシブ



INTEGRATION



INCLUSION

アドボカシーと人権

～病院外部とつながる権利を守る～

- ① 定期的に入院者訪問支援員が訪問し、話をする
ことができるような環境の付与
- ② 弁護士や障害者団体等などの権利擁護のための
機関にアクセスする機会の付与
- ③ 権利擁護のための機関に依頼する機会の付与



～適切な治療を受ける権利を守る～

- ① 風通しの良い、適切な治療環境の提供
- ② 治療内容や不服申立て等の手続きの方法を告知され、弁解と防御の機会を付与される権利
- ③ 医療者とのコミュニケーションを円滑にすること



～地域で生活する権利を守る～

- ① 病院ではなく地域で生活する権利
- ② 地域で生活するための支援を受ける権利
- ③ 偏見、差別されることなく、社会に包摂される権利

入院者訪問支援の機能

制度の検討段階の認識枠組み

地域移行のための訪問
(病院と協力)

or

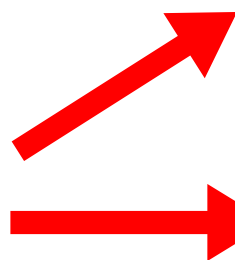
権利擁護のための訪問
(法律家との協力)

入院者訪問支援事業の枠組み

傾聴



必要な場合の情報提供
(つなぐ役割)



地域移行のための
事業所

権利擁護のための
機関